

第3章

食をめぐる現状



第3章 食をめぐる現状

3

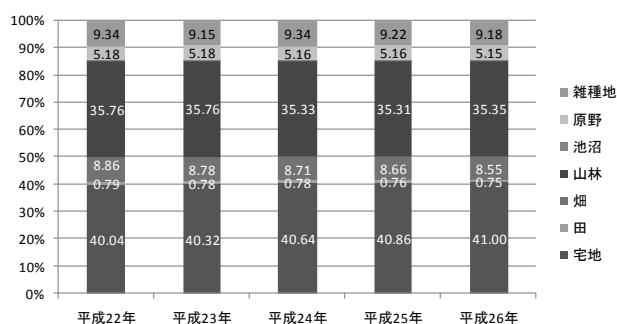
1 八王子市の地域特性

(1) 自然豊かな八王子市は宅地化が進んでいます

市内の土地面積は 186.38km²（平成 27 年 3 月）に及び、これは東京都内で奥多摩町に次ぐ大きさになります。

八王子市は、田畑が全体の約 9%、山林や原野が全体の約 40%以上を占めており、自然に恵まれていると言えますが、平成 22 年から 26 年までの市内の地目別土地面積の推移をみると、年々宅地面積が増加し、畑地、山林、原野の面積が減少しています。

八王子市の地目別土地面積の推移



「八王子市 地目別土地面積、評価額」より作成

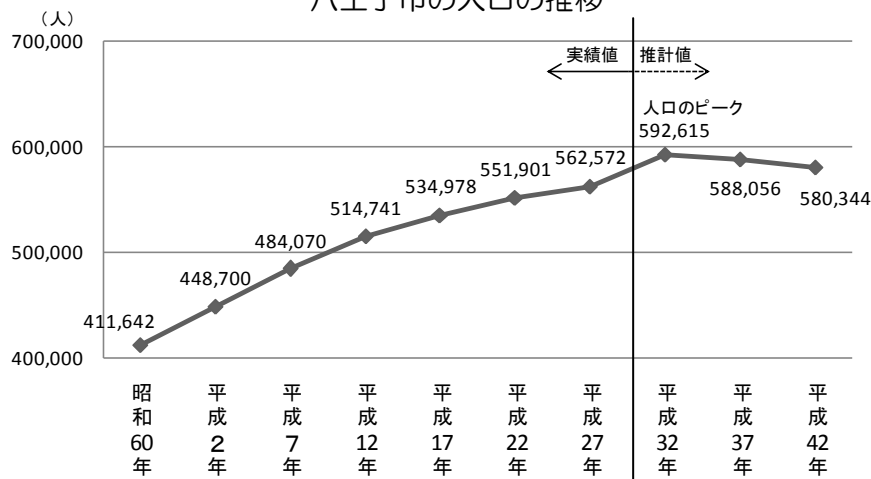
(2) 歴史ある八王子市は学園都市として発展しています

八王子市は、江戸時代は甲州街道沿いの最大の宿場町として、明治期は絹織物産業・蚕産業の生産地・集散地の中心として栄えました。昭和 30 年代以降、市の郊外に多摩ニュータウン等の大規模住宅団地、北八王子工業団地等の工業団地が建設され、さらに大学の移転が相次ぐ等、住宅都市、学園都市として発展してきました。また、市域には 21 の大学・短期大学・高等専門学校があり、約 10 万人の学生が学んでいます。

(3) 宅地化が進み増加していた人口は今後減少すると予測されています

八王子市の人口は、昭和 60 年から平成 27 年の 30 年間で 41.1 万人から 56.2 万人と 1.36 倍になっています。平成 27 年時点で、八王子市の人口は東京都の区市町村の中で 6 位に位置します。

八王子市の人口の推移



実績値：統計八王子平成 26 年版「人口の推移」、
推計値：「八王子ビジョン 2022」策定時の人口推計（～平成 42 年）より作成



(4) 農業が盛んな八王子市は食材に恵まれ、食文化が豊かです

①食文化

明治期には、津久井、相模、藤野から多くの働き手が入ってきていたことから、八王子市の食文化には、それらの地域の影響が見られます。主食は米、麦、あわ、稗、蕎麦などで、通常は、米3合にあら挽きした麦（挽きわり）7合で炊いた飯を日常食としていました。また、もう一つの主食はいも類で、えごいも、さつま芋、やつがしら、里芋がありました。さつま芋は乾燥し粉にして、さつま団子にして食べていたとされています。

江戸時代から物流の要所の宿場町として栄えた八王子市には、多くの飲食店が軒を連ねていました。市内には、現在でも老舗の和菓子屋や蕎麦屋が多く、和菓子商組合、蕎麦商組合は100年以上の歴史があります。

また、八王子ならではのメニューとして50年以上の歴史がある「八王子ラーメン」に続いて、近年「八王子ナポリタン」なども登場しています。



八王子の郷土料理～農家の暮らしに関わりが深い郷土料理があります

行事食

★糰飯（かてめし）★ 大勢の人が集まった時に振る舞われた料理（まぜご飯）

- ◆奈良時代…雑穀に野菜や芋などで量を増やし（かさまし）て炊いていた。
- ◆江戸時代…季節の食材（春…筍 秋…きのこなど）を入れて炊いていた。
- ◆現在…八王子では『五目寿司』として伝承されている。



かて飯
（大根）

★やきごめ★ 大豆が入った『おこわ』

- ◆歴史1…山梨県を中心に、水田地方に伝わった。
- ◆歴史2…山梨県では『やこめ』という。
- ◆歴史3…八王子では縁日や祭礼で食べられた。
- ◆歴史4…昔は、『疱瘡』にかからないようにと、願いを込めて作っていた。



かて飯
（さつま芋）

普段の生活で食べていたもの

★煮だんご★ 小麦粉を水でこねた団子を入れた『すいとん』のようなもの

★煮こみ★ 『煮込みうどん』のこと

おやつで食べていたもの

★石垣だんご★ 甘くしたうどん粉の生地サイコロ状に切ったさつま芋を混ぜ蒸した団子

- ◆説1…サイコロ状のさつま芋が石垣のように見えるから…
- ◆説2…時間が経つと固くなる…

★たらし焼き★ 小麦粉を水で溶いて焼いたもの ※醤油をつけて食べる

- ◆説1…鉄板にたらし焼いたことからこの名前がついた…



②主要な農産物

八王子市の主要な作物にはトマト、こまつな、なす、ほうれんそう、きゅうりなどがあり、野菜の作付面積では、ほうれんそうが一番多く作られています。また、一部の農家では江戸東京野菜²の「高倉大根」「川口えんどう」「八王子しょうが」の栽培に取り組んでおり、若手が中心となり「パッションフルーツ」の栽培に取り組んでいる農家もあります。

家畜・家さんについては、乳用牛、肉用牛、豚を飼養する農家数が減少しています。



高倉大根



川口えんどう



八王子しょうが

(写真出典)

多摩・八王子江戸東京野菜研究会

③道の駅八王子滝山

平成19年4月、都内初の「道の駅」としてオープンして以来、毎年約100万人の来場者があり、八王子の新名所の一つとなっています。来場目的の1位が「野菜の購入」続いて「食事」となっており地産地消の一翼を担っています。

直売所の農畜産物は、地場産が約6割を占め、商品の補充を迅速に行うため、パソコンや携帯電話で出荷者へ売れ行き情報を提供しており、品切れが発生しないよう追加出荷に役立っています。また、消費者の「食」に対する安全・安心への要望に対応するため、陳列台に設置してあるモニターに商品のバーコードをかざすと生産者の顔写真やコメントが表示される「顔が見える販売」にも取り組んでいます。



道の駅八王子滝山



道の駅八王子滝山（直売所）

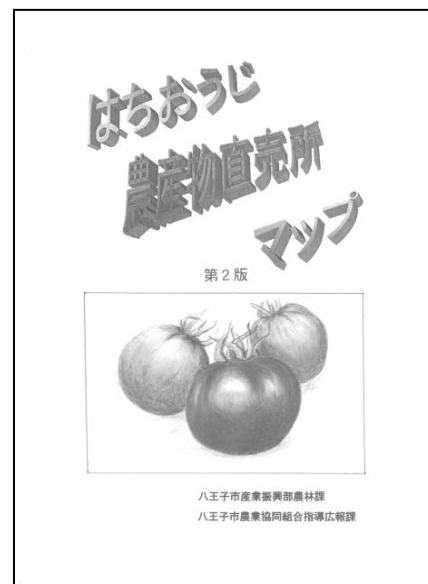
²昔から現在まで東京周辺で栽培され続けている野菜。市場にほとんど出回っておらず希少性が高い。



④直売所

近年、市内の農業者の生産・出荷の体制は、市場への出荷に加え、少量多品目生産によるスーパーや生協などとの契約出荷のほか、JA 八王子直売所や農家の庭先販売などの直売方式への転換が見られます。

八王子市では「はちおうじ農作物直売所マップ」を作成し、直売が行われている場所を紹介しています。



はちおうじ農作物直売所マップ
(表紙)

⑤市民農園

市民の健全な余暇利用として、野菜の栽培を通じ、家族ぐるみで土に親しみ、健康増進と豊かな情操を培う憩いの場を提供することを目的に、昭和 49 年度から市民農園を開設しています。

現在は八王子市内に8箇所(461 区画 総面積 7,685 m² (平成 27 年 4 月 1 日現在))が開園しています。



市民農園 (ひよどり山農園)



2 八王子市民の食育・健康についての意識

(1) 市民意識調査の結果

調査対象	配付・回収方法	調査時期	回収数	回収率
18歳以上の市民 2,000 名 (住民基本台帳より無作為抽出)	郵送	平成 27 年 6 月 5 日 ～ 平成 27 年 7 月 3 日	861 件	43.0%

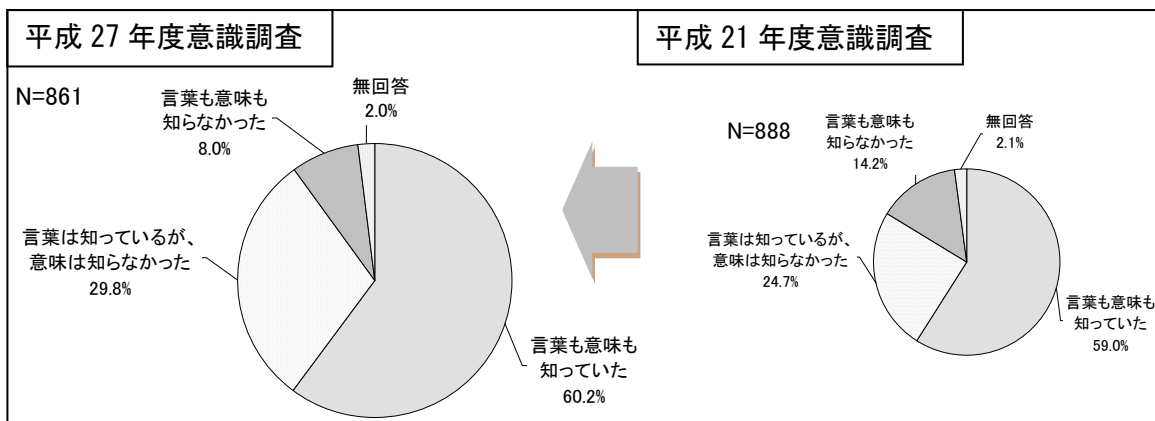
※詳細は「第2期 八王子市食育推進計画づくりに関する意識調査報告書」に記載しています。

食育への関心について

①「食育」という言葉の認知度

「食育」という言葉の認知度については、「言葉も意味も知っていた」が最も多く 60.2%となっています。

年代別に見ると、どの年代も「言葉も意味も知っていた」という回答が最も多くなっています。平成 21 年度八王子市食育推進計画づくりに関するアンケート調査（以下「平成 21 年度意識調査」という。）と比較すると「言葉も意味も知らなかった」という回答が減少（14.2%→8.0%）しています。



年代別回答

	合計	言葉も意味も知っていた	言葉は知っているが、意味は知らなかった	言葉も意味も知らなかった	無回答
全体	858 100.0	515 60.0	257 30.0	69 8.0	17 2.0
10、20代	86 100.0	45 52.3	31 36.0	10 11.6	0 0.0
30代	132 100.0	89 67.4	36 27.3	6 4.5	1 0.8
40代	150 100.0	96 64.0	40 26.7	10 6.7	4 2.7
50代	154 100.0	96 62.3	47 30.5	7 4.5	4 2.6
60代	174 100.0	100 57.5	53 30.5	18 10.3	3 1.7
70代以上	162 100.0	89 54.9	50 30.9	18 11.1	5 3.1

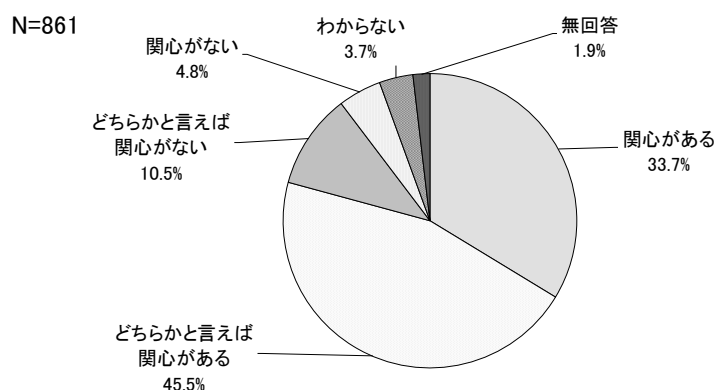
※上段：件数、下段：割合
※各年代で最も多い選択肢に着色



②「食育」についての関心

「食育」についての関心については、「どちらかといえば関心がある」が最も多く45.5%となっています。

「関心がある」という回答は年代とともに高くなる傾向があります。



年代別回答

	合計	関心がある	どちらかといえば 関心がある	どちらかといえば 関心がない	関心がない	わからない	無回答
全体	858 100.0	288 33.6	391 45.6	90 10.5	41 4.8	32 3.7	16 1.9
10、 20代	86 100.0	16 18.6	39 45.3	15 17.4	10 11.6	6 7.0	0 0.0
30代	132 100.0	51 38.6	50 37.9	15 11.4	9 6.8	6 4.5	1 0.8
40代	150 100.0	42 28.0	87 58.0	6 4.0	6 4.0	6 4.0	3 2.0
50代	154 100.0	63 40.9	62 40.3	19 12.3	5 3.2	2 1.3	3 1.9
60代	174 100.0	46 26.4	89 51.1	20 11.5	9 5.2	5 2.9	5 2.9
70代以上	162 100.0	70 43.2	64 39.5	15 9.3	2 1.2	7 4.3	4 2.5

※上段：件数、下段：割合

※各年代で最も多い選択肢に着色

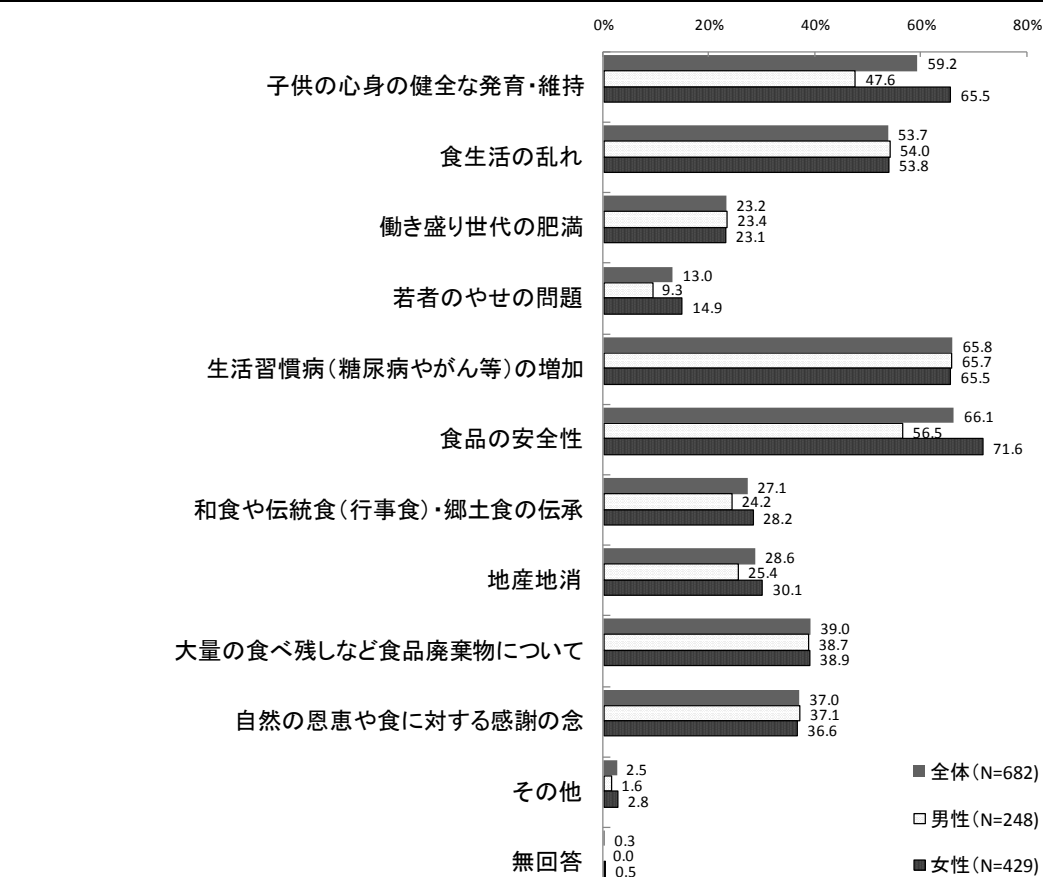


③「食育」に関することで関心を持っていること

「食育」に関して関心を持っていることについては、「食品の安全性」が最も多く66.0%となっています。

性別でみると「子供の心身の健全な発育・維持」と「食品の安全性」について、女性が男性より多くなっており、その差も顕著にみられます。

年代別に見ると、10代・20代は「食生活の乱れ」、子育て世代は「子供の心身の健全な発育・維持」、高齢者世代は「生活習慣病の増加」という回答が最も多くなっており、「食育」に関することで関心を持っている事項は世代によって異なります。



年代ごとの順位

	1 位	2 位	3 位	4 位
全体	食品の安全性	生活習慣病（糖尿病やがん等）の増加	子供の心身の健全な発育・維持	食生活の乱れ
10、20代	食生活の乱れ	食品の安全性	生活習慣病（糖尿病やがん等）の増加	子供の心身の健全な発育・維持
30代	子供の心身の健全な発育・維持	食品の安全性	生活習慣病（糖尿病やがん等）の増加	食生活の乱れ
40代	子供の心身の健全な発育・維持	食品の安全性	食生活の乱れ	生活習慣病（糖尿病やがん等）の増加
50代	生活習慣病（糖尿病やがん等）の増加	食品の安全性	子供の心身の健全な発育・維持 食生活の乱れ	—
60代	生活習慣病（糖尿病やがん等）の増加	食品の安全性	子供の心身の健全な発育・維持	食生活の乱れ
70代以上	生活習慣病（糖尿病やがん等）の増加	食品の安全性	自然の恩恵や食に対する感謝の念	子供の心身の健全な発育・維持

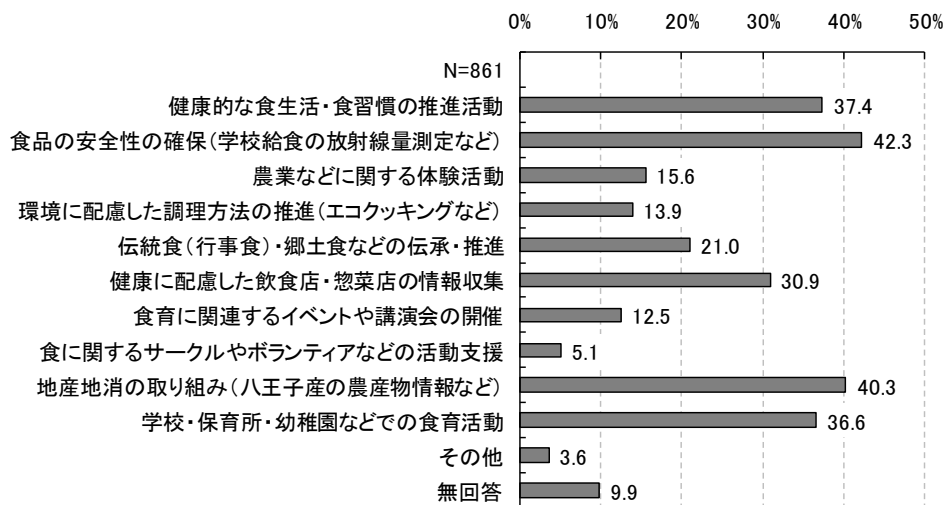


食育に関する取組みについて

④食育について、市で重点的に取り組んでほしいこと

「食品の安全性の確保」が最も多く 42.3%、次いで「地産地消の取組み」が 40.3%、「健康的な食生活・食習慣の推進活動」が 37.4%となっています。

年代別に見ると、20代と30代（同率）では「学校・保育所・幼稚園などでの食育活動」が、50代と60代では「地産地消の取組み」が、70代では「健康的な食生活・食習慣の推進活動」が最も多くなっており、市に求める内容は年代によって異なります。



年代ごとの順位

	1 位	2 位	3 位	4 位
全体	食品の安全性の確保(学校給食の放射線量測定など)	地産地消の取組み(八王子産の農産物情報など)	健康的な食生活・食習慣の推進活動	学校・保育所・幼稚園などでの食育活動
10、20代	学校・保育所・幼稚園などでの食育活動	健康的な食生活・食習慣の推進活動	食品の安全性の確保(学校給食の放射線量測定など)	健康に配慮した飲食店・惣菜店の情報収集
30代	食品の安全性の確保(学校給食の放射線量測定など) 学校・保育所・幼稚園などでの食育活動	地産地消の取組み(八王子産の農産物情報など)	伝統食(行事食)・郷土食などの伝承・推進	—
40代	食品の安全性の確保(学校給食の放射線量測定など)	学校・保育所・幼稚園などでの食育活動	地産地消の取組み(八王子産の農産物情報など)	健康に配慮した飲食店・惣菜店の情報収集
50代	地産地消の取組み(八王子産の農産物情報など)	健康的な食生活・食習慣の推進活動	学校・保育所・幼稚園などでの食育活動	食品の安全性の確保(学校給食の放射線量測定など)
60代	地産地消の取組み(八王子産の農産物情報など)	健康的な食生活・食習慣の推進活動	食品の安全性の確保(学校給食の放射線量測定など)	健康に配慮した飲食店・惣菜店の情報収集
70代以上	健康的な食生活・食習慣の推進活動	地産地消の取組み(八王子産の農産物情報など)	食品の安全性の確保(学校給食の放射線量測定など)	健康に配慮した飲食店・惣菜店の情報収集

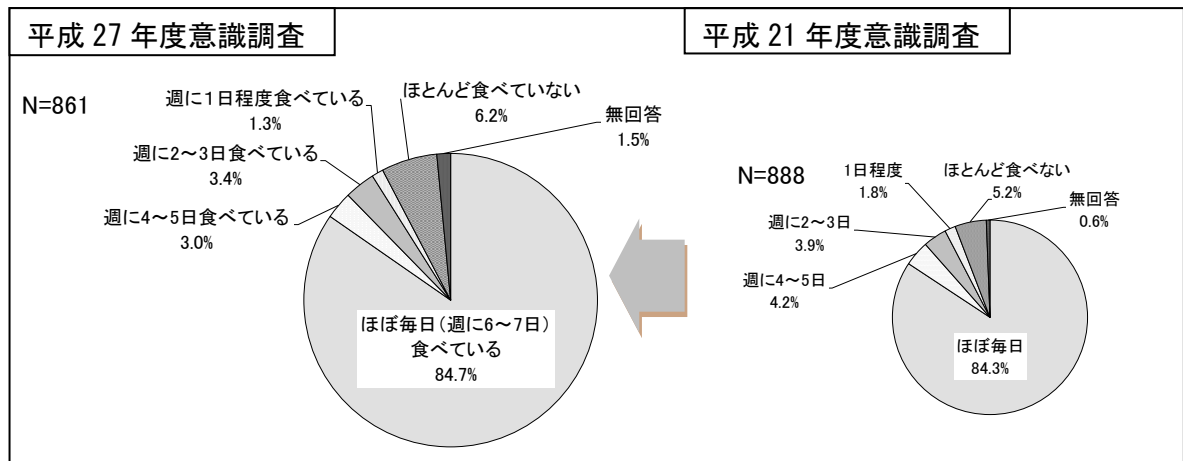


食生活について

⑤朝食を食べている人の割合

朝食を食べる割合は「ほぼ毎日（週に 6～7 日）食べている」が最も多く 84.7%となっており、平成 21 年度意識調査と比較しても同様の結果となっています。

しかし、30 代～50 代の働き盛り世代では「ほとんど食べていない」という回答が他の世代より多く、性別で比較すると男性の欠食が目立ちます。



性別、年代別での集計

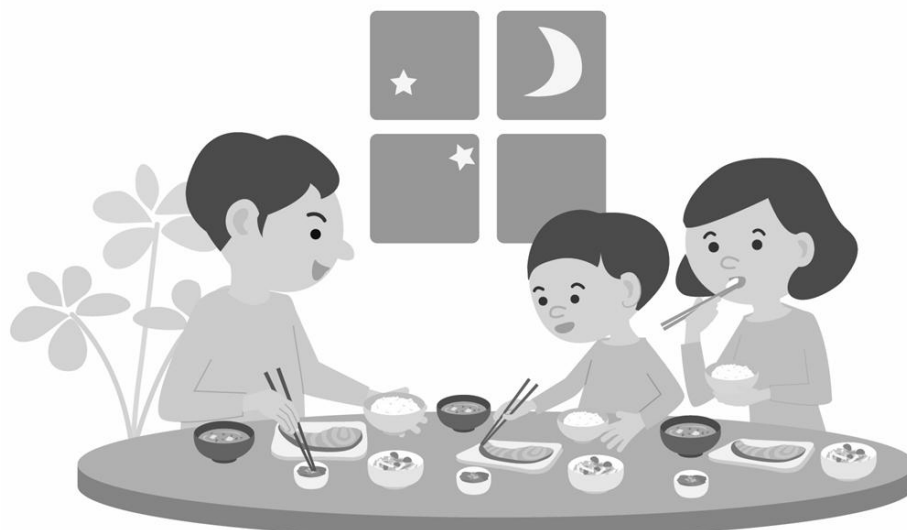
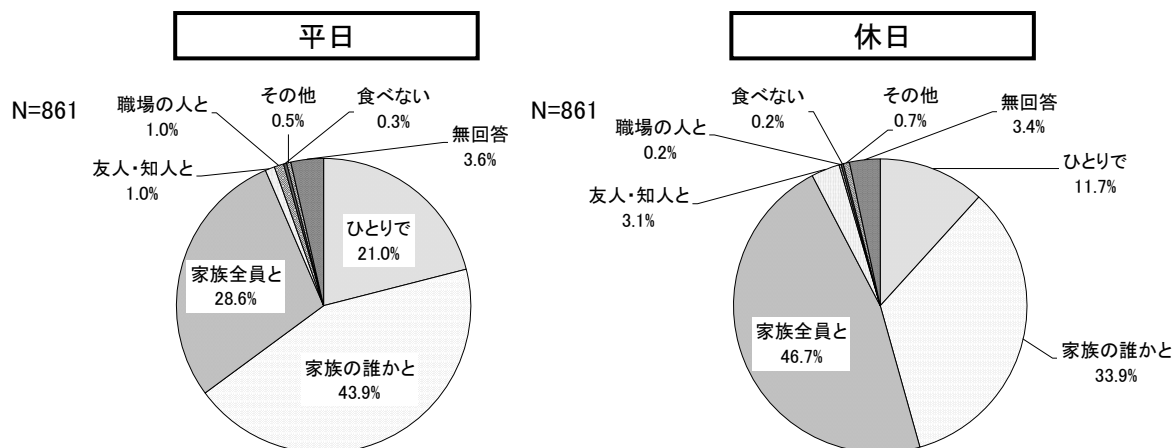
	合計		ほぼ毎日 (週に6～7日) 食べている		週に4～5日 食べている		週に2～3日 食べている		週に1日程度 食べている		ほとんど 食べていない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全体	344	498	286	437	10	16	17	12	5	6	26	27
	100.0	100.0	83.1	87.8	2.9	3.2	4.9	2.4	1.5	1.2	7.6	5.4
10代、 20代	33	53	26	37	1	4	3	7	0	3	3	2
	100.0	100.0	78.8	69.8	3.0	7.5	9.1	13.2	0.0	5.7	9.1	3.8
30代	47	83	33	72	3	4	3	1	1	0	7	6
	100.0	100.0	70.2	86.7	6.4	4.8	6.4	1.2	2.1	0.0	14.9	7.2
40代	52	96	36	86	2	2	4	1	1	1	9	6
	100.0	100.0	69.2	89.6	3.8	2.1	7.7	1.0	1.9	1.0	17.3	6.3
50代	58	93	46	83	1	2	4	0	2	1	5	7
	100.0	100.0	79.3	89.2	1.7	2.2	6.9	0.0	3.4	1.1	8.6	7.5
60代	80	91	74	80	1	3	3	2	1	1	1	5
	100.0	100.0	92.5	87.9	1.3	3.3	3.8	2.2	1.3	1.1	1.3	5.5
70代以上	74	82	71	79	2	1	0	1	0	0	1	1
	100.0	100.0	95.9	96.3	2.7	1.2	0.0	1.2	0.0	0.0	1.4	1.2

上段：件数、下段：割合



⑥夕食を誰と食べているか

夕食を誰と食べているかについては、平日は「家族の誰かと」が43.9%で最も多く、休日は「家族全員と」が46.7%と最も多くなっています。休日の夕食は平日と比較してみると「ひとりで」という回答の割合も減っており、家族とともに食事をする方が増えていることがわかります。

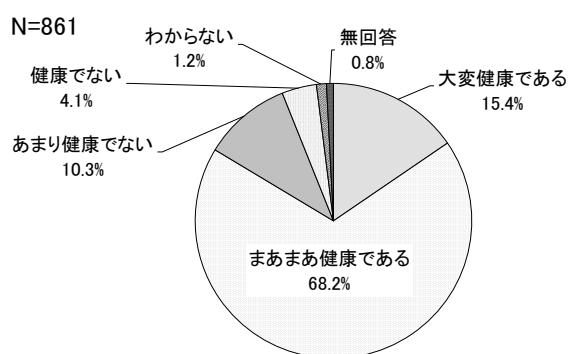


健康の状況について

⑦自身の健康状態

自身の健康状態については「まあまあ健康である」が最も多く 68.2%となっています。

年代別にみると、「あまり健康ではない」は30代～50代の男性と40代の女性で多くなっています。



性別、年代別での集計

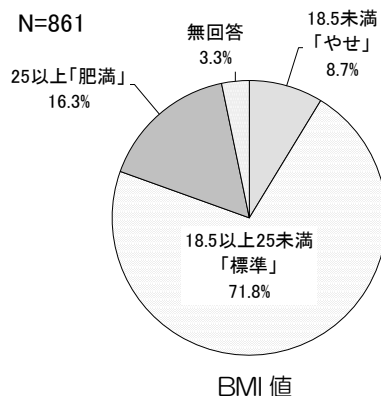
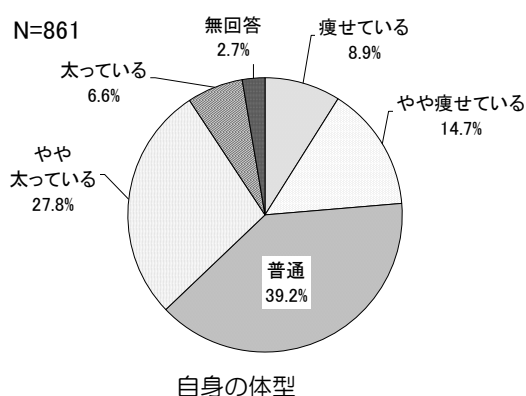
	合計		大変健康である		まあまあ健康である		あまり健康でない		健康でない		わからない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全体	347	501	49	82	225	359	50	38	20	15	3	7
	100.0	100.0	14.1	16.4	64.8	71.7	14.4	7.6	5.8	3.0	0.9	1.4
10代、20代	33	53	7	15	21	30	4	5	0	3	1	0
	100.0	100.0	21.2	28.3	63.6	56.6	12.1	9.4	0.0	5.7	3.0	0.0
30代	46	84	10	16	26	60	8	6	2	1	0	1
	100.0	100.0	21.7	19.0	56.5	71.4	17.4	7.1	4.3	1.2	0.0	1.2
40代	54	96	3	14	35	69	9	11	6	2	1	0
	100.0	100.0	5.6	14.6	64.8	71.9	16.7	11.5	11.1	2.1	1.9	0.0
50代	58	95	5	14	39	69	10	6	4	4	0	2
	100.0	100.0	8.6	14.7	67.2	72.6	17.2	6.3	6.9	4.2	0.0	2.1
60代	82	92	13	11	58	74	8	2	2	2	1	3
	100.0	100.0	15.9	12.0	70.7	80.4	9.8	2.2	2.4	2.2	1.2	3.3
70代以上	74	81	11	12	46	57	11	8	6	3	0	1
	100.0	100.0	14.9	14.8	62.2	70.4	14.9	9.9	8.1	3.7	0.0	1.2

上段：件数、下段：割合



⑧主観的体型について

自身の体型については「普通」と思っている人が最も多く 39.2%となっています。
BMI 値³については「標準」が最も多く 71.8%となっています。自身の体型と BMI 値との関係を性別でみると、BMI 値 18.5 未満の「やせ」の方で自身の体型が痩せていると感じている方は、女性が男性と比べて 30 ポイント少なくなっています。



BMI 値と主観的体型の関係

			合計	痩せている	やや 痩せている	普通	やや 太っている	太っている	無回答
男性	全体		346	34	48	116	106	30	12
			100.0	9.8	13.9	33.5	30.6	8.7	3.5
	BMI値	18.5未満 「やせ」	15	12	2	0	0	0	1
			100.0	80.0	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7
		18.5以上25未満 「標準」	240	22	46	110	51	2	9
			100.0	9.2	19.2	45.8	21.3	0.8	3.8
女性	全体		484	43	77	209	124	21	10
			100.0	8.9	15.9	43.2	25.6	4.3	2.1
	BMI値	18.5未満 「やせ」	60	30	23	5	0	0	2
			100.0	50.0	38.3	8.3	0.0	0.0	3.3
		18.5以上25未満 「標準」	376	13	54	199	97	5	8
			100.0	3.5	14.4	52.9	25.8	1.3	2.1
	BMI値	25以上 「肥満」	48	0	0	5	27	16	0
			100.0	0.0	0.0	10.4	56.3	33.3	0.0

※上段：件数、下段：割合

※各項目で最も多い選択肢に着色

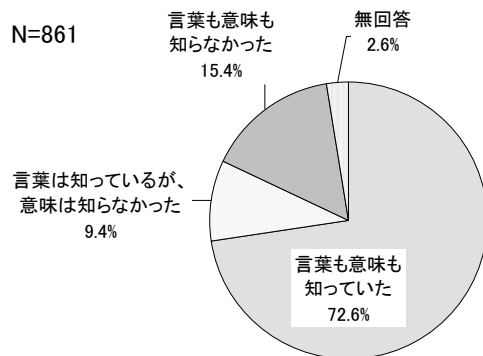
³BMI 値：Body Mass Index（ボディマス指数）体重と身長の関係から算出されるヒトの肥満度を表す体格指数 体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)}で求める。



地産地消について

⑨「地産地消」という言葉の認知度

「言葉も意味も知っていた」が最も多く 72.6%となっています。
年齢別に見ると、どの年代も「言葉も意味も知っていた」という回答が最も多くなっており、「地産地消」という言葉の認知度は高くなっています。



年代別での集計

	合計	言葉も意味も知っていた	言葉は知っているが、意味は知らなかった	言葉も意味も知らなかった	無回答
全体	858 100.0	623 72.6	80 9.3	133 15.5	22 2.6
10、20代	86 100.0	49 57.0	14 16.3	22 25.6	1 1.2
30代	132 100.0	102 77.3	8 6.1	21 15.9	1 0.8
40代	150 100.0	112 74.7	12 8.0	25 16.7	1 0.7
50代	154 100.0	111 72.1	15 9.7	27 17.5	1 0.6
60代	174 100.0	134 77.0	13 7.5	21 12.1	6 3.4
70代以上	162 100.0	115 71.0	18 11.1	17 10.5	12 7.4

※上段：件数、下段：割合

※各年代で最も多い選択肢に着色

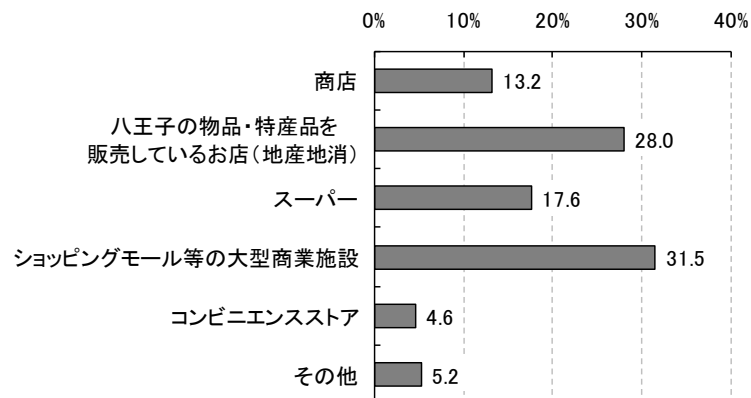


近くにあったら行ってみたいお店

八王子市の買い物環境に関する調査をみると、「近くにあったら行ってみたいお店」という項目で「八王子の物品・特産品を販売しているお店（地産地消）」という回答が2番目に多くなっています。



はちおうじ食育キャラクター
はっちくん



(平成 25 年 2 月 八王子市買い物環境実態調査報告書)

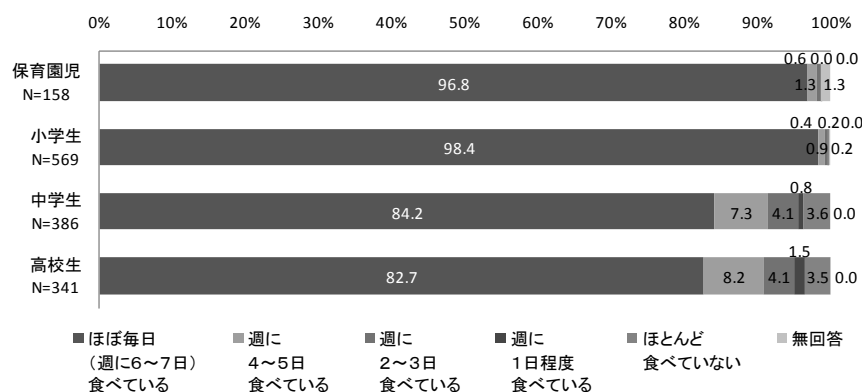


(2) 子ども意識調査の結果

調査	調査対象	回収数
保 育 園	子安保育園、千人保育園、長房中央保育園、北野保育園、みなみ野保育園の4・5歳児の保護者	158 件
小 学 校	東浅川小学校、みなみ野小学校の1～6年生 各学年の2クラスの児童の保護者	569 件
中 学 校	第四中学校、打越中学校の1～3年生 各学年の2クラスの生徒全員	386 件
高等学校	都立富士森高等学校の1～3年生 各学年の3クラスの生徒全員	341 件
合 計		1,454 件

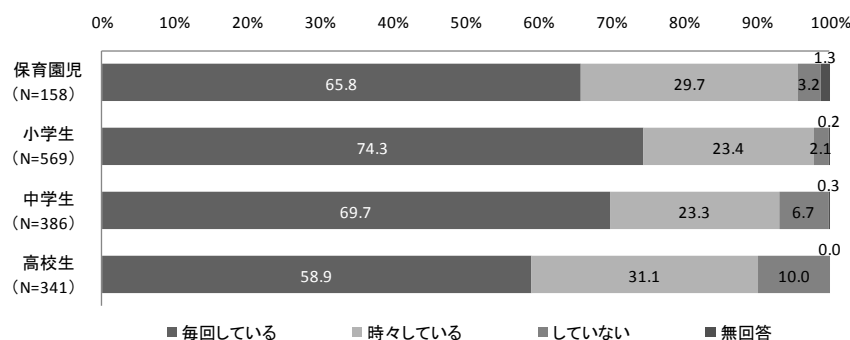
朝食を食べている人の割合

いずれの調査においても「ほぼ毎日（週6～7日）食べている」が最も多くなっています。「ほぼ毎日（週6～7日）食べている」という回答は、保育園児、小学生で95%を上回っている一方で、中学生、高校生ではともに85%を下回っており、朝食を食べない比率が高くなっています。



食事の際の挨拶

いずれの調査においても「毎回している」が最も多くなっています。毎回挨拶しているという回答は4つの調査で比較すると小学生で最も多く、74.3%となっています。



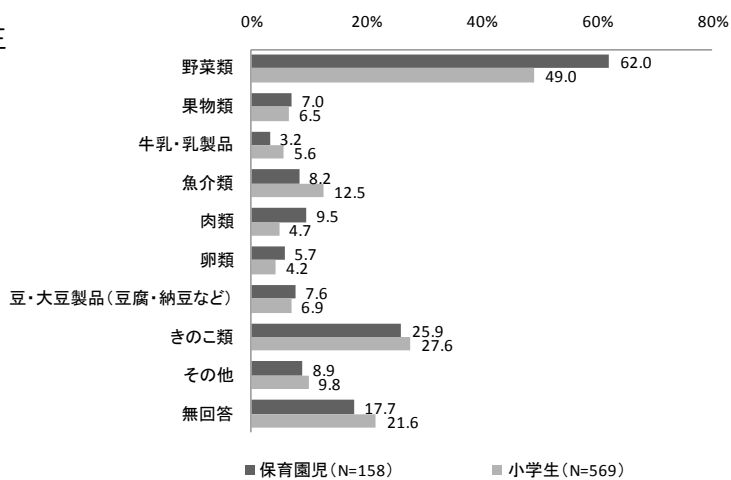
子どもが嫌いな食べ物

保育園児、小学生ともに「野菜類」が最も多く、次いで「きのこ類」の順となっています。保育園児は「肉類」、小学生は「魚介類」が3番目となっています。

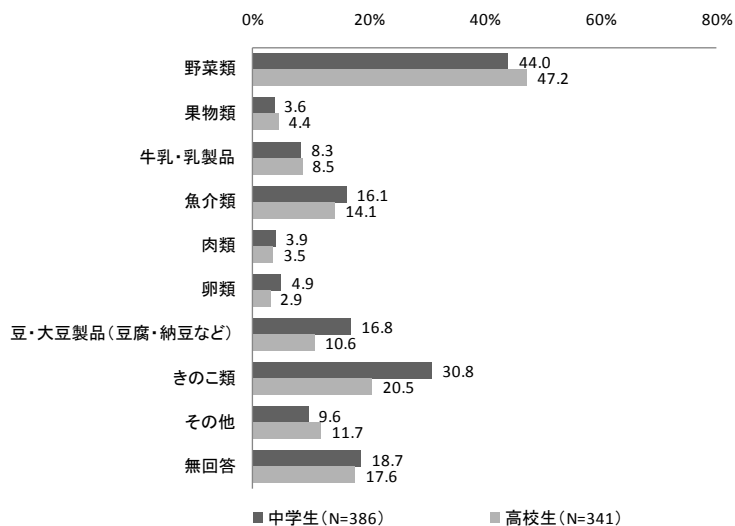
中学生、高校生も「野菜類」が最も多く、次いで「きのこ類」の順となっています。中学生は「豆・大豆製品」、高校生は「魚介類」が3番目となっています。

いずれの世代においても野菜嫌いということがうかがえます。

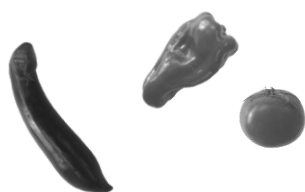
保育園児、小学生



中学生、高校生



子どもが嫌いな野菜の品目上位3位



保育園：①ピーマン ②トマト ③ナス
 小学生：①ピーマン ②ナス ③トマト
 中学生：①ナス ②ピーマン ③トマト
 高校生：①トマト ②ナス ③セロリ

(子ども意識調査)

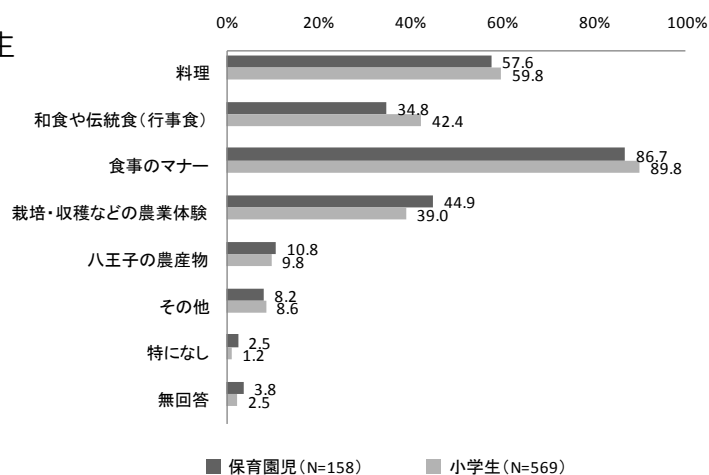


食に関わることで、お子様に教えたい・伝えたいこと / 知りたいこと

保育園児、小学生ともに「食事のマナー」が最も多く、次いで「料理」の順となっています。保育園児は「栽培・収穫などの農業体験」、小学生は「和食や伝統食（行事食）」が3番目となっています。

中学生、高校生ともに「料理」が最も多く、次いで「特になし」の順となっています。

保育園児、小学生



中学生、高校生

